

### 1.3. 相鉄いずみ野線沿線におけるシビックプライドの醸成とシティプロモーション（仮称）

（応募チーム：花のいずみ野沿線組（横浜市））

（評価）

これは横浜市の課題である「市民が地域に愛着を持ち住み続けたい街づくりや地域を基盤にした市民相互のつながりを育む」ための横浜西部地域のシビックプライドの醸成を狙ったアイデアで、学生と市民、相鉄グループ、横浜市の混成チームによるものである。データや情報分析から、西部地域の急速な高齢化、愛着度の低さを発見し、コミュニティ活動の特徴を洗い出すなどの地道な取り組みを評価したい。そして、いずみの沿線「泉区」の価値を農地面積に見い出している。

そして、フェリス女学院とタイアップした①地域との農業の農産物を軸にしたコラボレーション、②若者目線による既存イベント（マルシェ）のリニューアルを打ち出して、地域社会（緑園都市コミュニティ協会（RCA）ら）と大学が一体化して地域のプロモーションに具体的に取組む姿勢を評価したい。

（アドバイス）

#### （1）継続した取り組み

このアイデアは、学生と市民（RCA、相鉄グループ）、横浜市の混成チームとはいえ、内容を主導したのはフェリス女学院の学生たちであり、授業有志からの発展で、GIS研究会（学内公認団体）が手がけたものでした。したがって、アイデアの継続的な実施に向けて、地域の有志による活性化委員会、まちづくり協議会、RCA、相鉄グループ、大学、そしてプラットフォーム役の市役所が何らかの協働体制を設けて、フェリス女学院の後続の学生にも継続的にかかわってもらうことが必要ではないでしょうか。

#### （2）大学の地域とのかかわりの強化

アイデアに「キャリア形成の新たなカリキュラムとして、地産野菜販売促進や農業体験などをいずみ野沿線地域で行う」とありますが、これは手掛けやすくて学生の関心も高いと思われるので、具体的な取り組みとして手掛けていただくことを期待しております。そして、この授業を取った学生が既存イベント（マルシェ）のリニューアルにもかかわっていければ（1）継続性の面でも望ましいと思います。

また、アイデアに「大学の解放（図書館、チャペル、食堂など）」とありますが、これも実現すれば、（1）継続性の確保に間接的に寄与すると思われる。

#### （3）横浜市への期待

今回のプレゼンで、横浜市の次の展開としてリビング・ラボがありました。これなどは次のCOGの地域での手法の一つとして可能性がありそうです。既存のYOKOHAMA YOUTH Upsとともに、地域でのさらなる具体化と多様な展開を期待しています。